麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

Vol.54

発行　麻生区クールアース推進委員会　　2026年10月
麻生区地域課題対応事業

2026夏休み環境イベント『ソーラークッカーを作ろう！』

Contents

・夏休み環境イベント『ソーラークッカーを作ろう！』 1 2
・「災害時に役立つソーラークッカー」の実演 2
・今年も地域の寺子屋へ出前授業を実施 3
・新委員長就任挨拶 3
・コラム①「2050年の天気予報Ver.2」 3
・「2026里山フォーラムin麻生」に参加 4
・「恩廻公園調節池見学会」に協力 4
・コラム②「気温上昇は数年内に1.5℃超過へ」／編集後記 4

8月8日（日）麻生区役所第1会議室での夏休み環境イベントでは、昨年に続き、100円ショップで購入できる200円のガスコンロシートを使ったソーラークッカー作りを行いました。毎年人気の企画で、今年は37組の応募の中から抽選で24組が選ばれ、21組56名の親子が参加しました。夏休みの自由研究を応援する内容ですが、参加する子どもは幼児から小学6年生までと幅広いため、地球温暖化の現状や原因を小さい子にもわかりやすく伝えられるよう、パネルシアターを併せて実施しました。

パネルシアター「ちきゅうがあぶない！」は、麻生区クールアース推進委員会のオリジナル作品です。昨年から保育園への出前授業で公演を重ねてきたもので、今回はパネル操作を担当する2名とキャスト4名で行いました。

劇では、CO_2が地球のまわりを覆い、南極や北極の氷が溶けてペンギンや白くまの暮らしが脅かされていること、海面上昇で住めなくなる南の島があることなど、温暖化の現状を伝えています。今回は新たに「日本の海」のパネルを追加し、海水温の上昇によって沖縄のサンゴ、北海道の昆布、東北のわかめが影響を受けていること、タイやブリなどの魚が住みやすい海を求めて北へ移動していることを紹介しました。台風や豪雨、猛暑といった日本の気象変化につながっていることを伝えました。

劇の後半では自然エネルギーについて説明し、「水を出しっぱなしにしない」「電気をつけっぱなしにしない」「食べ物を残さない」など、身近にできる資源の大切な使い方を参加者と一緒に確認しました。また、司会者からは、家庭でできるCO_2削減の中でも、電気を自然エネルギー由来の電力に切り替えることが最も効果的であることを伝えました。ぜひ皆さん、自然エネルギーを推進する電力会社への切り替えをご検討ください。

工作は毎年、試行錯誤しながら進めています。中條式（足利大学・中條先生考案）のソーラークッカーは、切って折るだけで作れ、コンパクトに収納できるのが特徴です。切り込みや谷折り、組み立てのガイド線を印刷した紙でミニチュアを作り、完成イメージを共有してから作業に入りました。小さい子には長さを測ったり線を引いたりする作業が難しいのですが、親子で協力し合い全員が無事に完成させることができました。







当日は天気にも恵まれ、まさにソーラークッカー日和でした。朝から屋上にパラボラ型とオーブン型クッカーを設置し、さつまいも・カボチャをセット。OB３名も交代で見守ってくれました。工作の後、熱中症に注意しながらみんなで屋上に上がり、目玉焼きづくりのデモンストレーションを見学しました。焼きいもやカボチャもおいしくでき、参加者は試食できてうれしそうでした。

時間の都合で、工作したソーラークッカーの詳しい使い方までは説明できませんでしたが、説明書を参考に、興味のある実験に挑戦してもらえればと思います。参加者からは後日、実験報告をいただく予定です。以下当日アンケートの抜粋です。

●太陽の光で料理ができることを知った。（３年）
●今地球が大変ということが分かりました。（４年）
●作り方やパネルシアターが分かりやすくて楽しかったです！（６年）
●自然の力を使ってできることがとてもすごいし、太陽のありがたみを感じました。（保護者）
●パネルシアターが分かりやすくて良かったです。なぜソーラークッカーを使うとよいのか理解できました。（保護者）

インターネットにはソーラークッキングのレシピも多く、太陽の力でカレーやケーキを作ることもできます。今回紹介したソーラークッカーは大人なら 15 分ほどで作れるため、災害時の備えとして一度作って試してみることをおすすめします。

今年も多くのサポーターと区役所の協力により、無事に開催することができました。当会のイベントでは学生を含むボランティアを募集しています。ぜひお問い合わせください。

（松下彰子記）

2

※広報紙「おひさまだより 50 号」にソーラークッカーの作り方を詳しく掲載しています。

生活クラブ生協の地域集会で「災害時に役立つソーラークッカー」の実演







７月 25 日（土）朝８時から準備を始めました。飯盒にお米を入れ、大きなジャガイモを黒のクッキングホイルに包み、卵はビールの空き缶に入れ、防災用のパンや缶詰ソーセージは直置きで、組み立てて庭に並べた各ソーラークッカーの真ん中にセットしました。

好天に恵まれとても暑い日でした。10 時開始 15 名が集まった時には、どれもホカホカに出来上がっていました。中でも、太陽の光の熱で炊いたご飯のおいしかったこと！これなら災害時もおだやかに過ごせそうです。試食しながら地球温暖化の現状を伝え、私たちの生活についてもみんなでいろいろ話せました。

参加者からは「実際に組み立て方を見て、楽しく勉強になる１日でした。いつもの食材が非常時にもおいしくいただけることがわかり、太陽熱を使ってエコにつながればとその日にネットで飯盒を注文しました。」とうれしい感想でした。

（天野悦子記）

今年も地域の寺子屋へ出前授業を実施

【寺子屋はるひ野（はるひ野小学校）】

2 月 21 日（土）体験活動「ペットボトルで風力発電機を作ろう！」を実施。1～5 年生の児童 18 名、保護者 12 名、寺子屋先生 7 名が参加しました。自然エネルギー講座、工作、まとめとクイズを保護者も一緒に楽しく行い、最後に感想・意見を書いて終わりました。一部を下記に掲載します。

●来るときはドキドキしていたけれどやってみるとすごく楽しくて、来てよかったなと思いました。ちきゅうがいまどうなっているのかがしれてうれしかった。

●以前麻生区のイベントで太陽光について教えてもらいました。今回もたのしみながら学ぶことができました！子どもたちのため、またこのようなイベントを楽しみにしています。（保護者）

はるひ野小学校での出前授業は今回が初めてでしたが、夏休み環境イベントにも参加して、講座を聞くのが 4 回目という児童もいました。自然エネルギーへの興味や関心が広がることを期待します。　（三好一義記）



【寺子屋くりぎだい（栗木台小学校）】

7 月 4 日（土）体験活動「SDG s を学ぼう！ペットボトルで風力発電機を作ろう」を実施。児童 15 名、保護者 13 名、寺子屋先生 5 名が参加しました。



1、2 年生の低学年が 10 名と多かったのですが、講座もしっかり聴いて最後のクイズにも答えていました。工作は保護者が協力して全員が無事に風力発電機を完成することが出来ました。参加者の感想・意見の一部を下記に記載します。

●自然エネルギーのことなど色々知れたのでいい経験になりました。楽しかったです。

●そうちをつくって風だけで電気をつくれるのはしっているけど、未来につながることをしれたからすごいとおもった。

●地球温暖化などの勉強を親子ですることが出来て良かった。また、工作自体も子どもが好きな内容で楽しんでいた。個人的に小学校に入る機会はなかなかないため、良い機会となった。（保護者）

栗木台小学校での出前授業は今年で 4 回目となりました。保護者からも毎回好評でうれしい限りです。

（三好一義記）

新委員長就任挨拶　森脇厚一郎



前任の児嶋さんから引き継ぎ、この 4 月から第 7 代の委員長に就任しました。コロナ禍の 2022 年 3 月に推進委員になってから講演会の企画・運営を中心に様々な活動をしてきました。

講演を聞いたり活動を通じて感じることは、訴えても響かない日本国の残念な現状です。

確かに CO_2の削減は簡単ではありません。温室効果の影響度は水蒸気が 5 割で CO_2は 2 割と言われるため、CO_2削減に反対意見すらあります。しかし、水蒸気すなわち水は誰が増やした訳でもない。でも気温が上がると大気中の水蒸気量は増えて温室効果が増す恐れがあります。

だからこそ気温を上げないために、人為的に増えている温室効果ガスである CO_2を着実に減らすことの重要性を皆さんにご認識いただき、行動を起こすキッカケを作っていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

コラム❼

どう受けとめる？
「2050 年の天気予報 Ver. 2」

「2050 年」ってまだ先の話だよね、と思う人もいるかもしれません。ちょっと待った！　各地で発生する酷暑日や集中豪雨など、すでに予兆は始まっています。

今回発表された Ver.2 は、CO_2などの温室効果ガスが排出され続けた場合に 2050 年の真夏の天気がどうなりそうか、を最新の科学的知見に基づき鮮烈に伝えています。ぜひ一人でも多くの方に関心を持って見ていただきたい。

自分の子や孫たちが成人する頃に、どうすれば活動やスポーツが普通にできる環境であり続けられるでしょうか？　今を生きる私たちが自分事としてこの動画の内容を捉え、できることを行動に移しましょう。（森脇厚一郎記）

©「2050 年の天気予報」製作委員会

「2026 里山フォーラム in 麻生」に参加



「里山フォーラム in 麻生」は、当会の活動と同様に麻生区地域課題対応事業の 1 つと位置づけられ、麻生区及び周辺地域の里地・里山保全活動を通し、自然や暮らしの歴史、文化等を継承し、次世代へ繋ぐためのさまざまな取組を行う市民団体です。

3 月 7 日のイベントは 1 年間の活動の総まとめとも言えるもので、通算 25 回目を数えました。小学生たちが身近な自然や人の関わりで学んだ成果を、虹ヶ丘・岡上・東柿生・柿生の 4 校から各々発表され、堂前代表の基調講演などの後、多数の展示団体・施設によるトークリレーで締めくくられました。当会からは私が登壇し、温暖化の体感がここ数年上がったことを訴え、「里山に優しくない気象環境を改善するために一緒に考えていこう」と話しました。（森脇厚一郎記）

4

CC あさお主催

「恩廻公園調節池見学会」に協力

7 月 31 日（金）に行われた見学会に協力団体として参加しました。

鶴見川流域の都市化に伴い、台風で氾濫が起きたことから、「鶴見川流域整備計画」が立てられ、鶴見川の水位が上がったときにいったん水をためておける施設として、「恩廻公園調節池」が建設されました。

近年、地球温暖化に伴い、台風は勢力を増す傾向にあります。また、線状降水帯による局地的な大雨も頻発し、今年は各地で甚大な被害が出ています。調節池の役割を実感するとともに、見学後の地球温暖化についてのレクチャーから、異常気象を引き起こす温暖化に対して、私たちができることについても学ぶ企画でした。（林惠美記）



コラム❷

国連が報告書を発表

「気温上昇は数年内に 1.5℃超過へ」

9 月 2 日、国連環境計画（UNEP)は、地球温暖化により数年以内に産業革命前からの気温上昇が 1.5℃を超える見込みと発表した。1.5℃は 2015 年に「パリ協定」で決めた気温上昇の抑制目標で、このままでは今世紀末までに 3℃近く上昇する。

報告書では、メタン対策や脱化石燃料を進め 1.8℃までに抑え、大気中の CO_2を除去する技術を加え、1.5℃に戻すシナリオも示す。ただ後戻り出来ない気温の転換点も迫っていると警告する。今や「オーバーシュート（超過）の時代」に！ 1.5℃をどこまで超すか、何年間超すかの段階となった。氷河はさらに減少し、海面が上昇する。小さな島国は水没の脅威にさらされ、大雨や干ばつで食料生産は減少する。激しい熱波により、病原体の流出による病気・死亡の増加、熱帯雨林の破壊などが連鎖的に起こる。グテレス事務総長は「我々は野心を高めて温暖化対策を加速させ、人類のために戦わなければならない」と述べた。

（児嶋脩記）

編集後記

世界中で温暖化による被害が止まらない。最近では、8 月 26 日にネパール・中国の国境地帯で土石流が発生した。9 月 16 日の発表では両国の死者 1446 人行方不明者 6669 人という未曽有の被害がでた。温暖化により岩氷雪崩が起きたとされる。これに対し、ネパールのカナル外相は、「ネパールは温室効果ガスをほとんど排出していないにもかかわらず地球規模の危機に対して極めて大きな代償を払っている。多量排出国はネパールのような脆弱国に補償する歴史的責任がある」と訴えている。

豊かな日本に暮らし温室効果ガスを排出し続ける私たちに責任はないのか。直ちに化石燃料による発電を停止し、再生可能エネルギーに変えることが必要だ。

さて、当委員会は今夏の環境イベントなど、盛況のうちに開催できたが、課題もさまざま散見された。ただ、再生可能エネルギーの大切さを伝えることができたと思う。今後も参加者のみなさんが継続的に学ぶ機会ができることを期待したい。（飯田和子記）

発　　行：麻生区クールアース推進委員会（委員長　森脇厚一郎）
編集担当：天野悦子、飯田和子、児嶋脩、小林知江
問合せ先：事務局　林惠美　　E-mail：asao.cool@gmail.com
発 行 日：2026 年 10月31日

